

神 峰 (かみね)

登録番号：第10988号

雄 梶山博也

登録年月日：平成15年2月20日

来 歴：「人丸」の自然交雑実生

登録者：茨城県(茨城県水戸市笠原町
978番6)

育成地：茨城県西茨城郡岩間町(茨城県
農業総合センター園芸研究所)

育成者：梅谷隆 佐久間文雄 片桐澄

特 性

■栽培特性

樹姿は中間で樹勢はやや強く、枝梢の長さ及び太さは中、枝梢の色はやや赤褐色である。開花期はやや早く「丹沢」、「人丸」よりも2日程度早い。結果性および雌花の着生性はともに中程度であり「丹沢」と同程度である。きゅう梗の離脱の程度は「人丸」より優れる。きゅう果の形はやや方球で大きさは「丹沢」および「人丸」と比較して大きい。きゅう果のとげはやや長く、やや太い。とげの密度はやや密である。

■果実特性

成熟期は「丹沢」と「人丸」の中間にあたり、「国見」と同時期であるが、年によっては「丹沢」と重なる場合がある。

果実の形は偏円形、大きさは30g程度で「丹沢」、「人丸」より大きい。果皮の色は暗褐色で果皮の毛じは中程度である。座は「丹沢」、「人丸」と比較してやや大きい。果肉の色は黄色く「丹沢」、「人丸」と同程度である。肉質はやや粘質である。甘みはやや多く「丹沢」と「人丸」の中間である。果皮の剥皮の難易および蒸しグりにした場合の渋皮の剥皮の難易はともに中程度で「丹沢」と同程度である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

モモノゴマダラノメイガ等による被害果の発生は「人丸」より多く、「丹沢」とは同程度か、年によってはやや多いため防除が必要である。

樹勢が強い品種であるので2代目、3代目の土地でも樹勢を維持したまま栽培できる。圃場条件が良いと樹勢が強くと結実不安定になる恐れもあるので、あまり密植せずに樹冠全体に日が良く当たるように栽培すると収量が確保できる。なお、台木との組み合わせによっては接木不親和症状を呈することがあるため注意が必要である。

双子果および裂果の発生は「丹沢」と同程度でやや多いが、早生品種としては問題ない程度である。

■地域適応性

成熟期は育成地(茨城県岩間町)で9月上旬～中旬であり、「丹沢」と「筑波」の収穫期を補完する品種として、また「国見」に代替する品種として考えられる。全国の主要なクワ栽培地域であれば、いずれの地域でも栽培可能であると思われる。

(関根伸昭)